

少子高齢化の対策について

町長 町民総出で少子高齢社会に明るく暮らせるまちづくり



古谷 眞司 議員

古谷 高齢者の独り暮らし、また高齢者夫婦の住まいが増えている。地域会館等のバリアフリー化がおくれている。家族世帯が住めるアパートが少なく、非常に高値になっている。これらの生活環境の対策について伺う。

援や町営住宅の環境整備、高齢者・障害者等が利便性の高い「まちなか居住」を進めていく。

次に、地域会館の改修等は、各町内会要望で優先順位をつけて行っている。今後も各町内会等の懇談や要望等を通じて応えていく。

安心して子どもを育てられる住宅の提供、居住環境づくりが必要である。一昨年から住みかえ支援制度を開始させた。この制度は少子高齢化社会における住生活環境を整えるための対策の一つと位置づけている。

古谷 俱知安高校、俱知安農高がある。両校とも定員が割れている。町内の両校への進学率は6割から7割程度である。

現在、町内外から両校へ通学する生徒への支援はあるか。また、両校への進学率を上げるための対策はあるか。そして、町外からの生徒を呼び込める環境（主に下宿）を整えることは考えられるか伺う。

町長 町内の高校への進学率は、

平成26年度から平成30年度の5年間の平均で62.6%。現在、町内外から両校へ通学する生徒の支援は町として直接生徒保護者への支援助成は行っていないが、俱知安農業高校教育振興会へ補助金を交付している。

町外また町内での郊外からの通学については、交通費の格差もある。全体的な枠組みも含めてあるべきかについても内部で検討していく。

地元高校の魅力等を行う政も一緒に関わって伝えていく。

また町が下宿等の環境整備を行うことや支援することは考えていないが、その時々状況において検討すべきものは検討しなければならぬと考える。

町長 高齢者社会に地づくりとして、高齢者や障害者等がいつまでも俱知安で自立的に暮らせる環境づくりが必要である。特に支援が必要と考えられる单身高齢者への民間賃貸住宅への入居支



北地域会館



俱知安高校



俱知安農業高校

一般質問 古谷眞司